

保健室だより

平成27年度第11号 千葉県立千葉南高校保健室

もうすぐ冬休み(´´)

夏休みが終わったね。後半はもう秋なんじゃないかと思うくらい涼しくなったよね～。前半の連続の猛暑日が嘘のようだ。急な気温の変化で体調がイマイチの人もあるかな。もう少しの辛抱だよ。お彼岸が過ぎ月のうさぎさんがお餅つきをする頃になると、本当の秋が来て気温も安定してくるからね。

学生の頃は夏休みが終わる頃ってすごく嫌だった。大人になってから思いついたこの「嫌」をあまり感じなくする方法が、「もうすぐ冬休み」なんだ。9月になってすぐに「今度の冬休みは何しようかな…」とか、楽しいことを考える。そうすると2学期も頑張れる気がしてくるんだよ。みんなはこの「もうすぐ冬休み作戦」どう思う？

エイズ文化フォーラム in 横浜

「牧師の僕がゲイでよかったこと」

平成6年からボランティアさんが主体となって開催されているこのイベント。これまでに何度も足を運んだけど、この夏もいくつかのプログラムに参加した。

とっても良かったのが平良愛香さんという牧師さんのお話。彼は自分がゲイであることをカミングアウトして、牧師さんのお仕事だけでなくLGBTs、いわゆる性的マイノリティの人たちの相談にのったり、講演活動を通して多くの人に啓発を行っている。

平良さんは沖縄県出身で、非常にリベラルな考え方のご両親に育てられた。小さい頃から「男らしくなさい」なんて言われたことはなかったんだって。愛香という名前も、男女どちらでも使えるような名前としてご両親で考えられたそう。そんな彼でも、自分がゲイなんじゃないかと悩み、確信してからもご両親にそれを伝えることがなかなかできなかったそう。

性的指向…つまり同性愛や異性愛などのことだけど、これって生まれつきのもので、自分で決めたんじゃないんだよね。芸能界では所謂「オネエ」がかなり活躍する時代になったけど、でも堂々と言える人はまだほんの少ししかいないと思う。一般的にオネエと呼ばれてる人の中にはゲイも性同一性障害も含まれてるかもしれないんだ。こういう分類ってさらに細かく分かれるんだけど、私は実はポジティブな意味でどうでもいいと思ってる。

だってさ、自分は生物学的には女だけど、心のパーセンテージは男の比率が高いと思うから。完璧に100%女(男)って人は果たしているのかな…。「人間」というひとくくりでいいんじゃないかと私は思うんだ。

「同性が好きかも」

誰にも言えず、悩んでいる人がいます。

同性愛者や性同一性障害者はクラスに

1～2人(※パーセンテージから推測して)

はいますが、日常の「ホモ」「おかま」

「レズ」という言葉に傷ついています。

周りとは違う自分に違和感を持ちながらも、

いじめや差別の対象になる不安から、

誰にも相談できず悩んでいる子どもが

います。(※は高橋が加筆した部分です。)

これは神奈川県横浜市にある「SHIP」という性的マイノリティの方々の支援をしている団体のパンフレット記載の言葉です。「SHIP」は神奈川県教育委員会ともタイアップして、偏見や差別をなくすための啓発活動も行っています。

ねえ、知ってる？

1学期の保健室だよりで、素の自分について考えさせられる本というので紹介した、「漁港の肉子ちゃん」を芥川賞を受賞した又吉さんが、高校生におススメの本としてあげてたんだよ！びっくりしたと同時に嬉しかった～。それに又吉さんと「カキフライが無いなら来なかった」の共著のせきしろさんという自由律俳句の作家さんも、私はおもしろい人やなあと思ってたんだ。本を読んでるといろいろつながってくるもんだ。因みにこの夏は又吉さんが大学生におススメの本と言った、町田康著「告白」を読んだよ！842ページの大作で読み応えがあった。こんな小説の書き進め方をするのを読んだの初めてですごく新鮮だったよ。